

忘れられない、思い出深い海外の山旅  
＜幻のブルーポピーを求めて、  
ヒマラヤ・ランタン谷へ＞  
保久良支部 北山由美子

山行期間

H30年7月13日（金）～7月21日（土）

平成30年初夏 ヒマラヤ・ランタン谷を訪ねる事になったのは、50年以上前のあるテレビ番組がきっかけでした。それは現在67才になる友人が12歳の時見たドキュメンタリー番組、シェルパ族がヒマラヤで幻のブルーポピーを探すという内容でした。その印象があまりに強烈で、彼女は死ぬまでにいつか、その幻の青いケシの花を見てみたいと夢に見続け、半世紀を経てその願いを実現したのでした。

2年前の7月13日伊丹空港から、羽田へ。そこで東京組と合流。11名でタイ・バンコクを経由してカトマンズへ入りました。その日はカトマンズのホテルに宿泊。翌日朝早くに空港に向かいます。そこから通常は3日掛けて歩くところをヘリコプターで30分のフライト。初めてのヘリは怖いかな、揺れるかな、と心配していましたが、とっても快適。ディズニーランドの乗り物みたい！そしてイギリス人登山家が、“世界で最も美しい谷”と言ったランタン村（3,330m）へ。まずここで高度順応です。1日ゆっくり過ごしました。翌日次の宿泊地、キャンジン・ゴンパへ、



キャンジン・ゴンパにて（筆者）

所要時間4時間、歩行距離約7Kmのトレッキング。この辺りは、2015年の地震でかなり被害を受けた所。ところどころ石垣だけの建物の跡がありました。



ツアー仲間・ガイドさんたちと全員集合！

季節は雨季、天候は不順ですが、高山の可憐なお花が満開。疲れも吹き飛ばすほどでした。そして翌日標高3840mのキャンジン・ゴンパへ。この周辺の山で2日間ブルーポピーを探す予定。シェルパも見た事が無いというブルーポピー。本当に咲いているのか？見つける事が出来るのか？お天気はどうなる？そこまで歩いて行けるのか？色んな???で、胸がワクワク、空気が薄くてフラフラのヒマラヤ二日目でした。

7月17日ブルーポピーアタックの朝。ネパール人のガイドさんが5時半に私達を起こしに来ました。ずっと小雨や霧が出ていたのに、信じられないくらい快晴！！神々の山が360℃その姿を見せてくれました！この時期こんな事はめったに無いとシェルパ達も興奮気味。空を見ると、お日様の周りに虹色の日輪が！吉兆かも！行けそうな気がしてきました。しかし11名中2人は目眩と吐き気の高山病で動けず、ロッジで待機。私達9人と日本人ガイドさん、ネパール人ガイドさん、シェルパ達7名で宿を出発。

歩き始めは草原の中をなだらかに進みます。少し高度が上がると、山々が本当に素晴らしい！

人工物は一切無く、ただ私達と自然だけ。こんな所を歩いている自分が信じられない。時々出会う牛やヤク達も神々しい。ヒマラヤコンドルが、大きな翼を広げて頭上を悠々と行く。途中数カ所流れのきつい川を渡らなければならない。シェルパ達が裸足になって石の橋を作ってくれ、私達を誘導してくれる。女性のシェルパー人がいて、ネパールの歌を歌ってくれる。楽しいが、空気はどんどん薄くなり、息が苦しくなり、指先が痺れる。もう4000m近い。ふと空を見上げると、彩雲。青・紫・ピンクときらきら光りながら流れていく。夢か現実かわからなくなる。



ランタン村の山々へ

3時間半歩いて、やっとランチタイム。シェルパ達は村から重いポットを担いできて、暖かい紅茶を入れてくれる。体が温まる。でも疲れと酸素不足で、ほとんど食べられない。横になって体を休める人もチラホラ。まだここから2時間は歩かないと辿り着かないらしい。皆歩けるだろうか…。

現地ガイドさんも心配気に見ているが、これはもう行くしかない！！

昼食の後少し進むと、山の上いきなり花園が現れた。緑の草原に黄色・ピンク・白い花々。薄っすら霧も掛かり死後の世界の様。そして大きな真っ黒い牛が一頭私達をじっと見ている。神の使いの様だ。

その花園を過ぎると、次は岩場。大小の岩を踏みしめて進み、少し開けた所でザックを置く。

ここからは道の無い所に行くので、カメラと杖だけ。

確かにここからは道無き道。ひたすら登りの斜面を低木の隙間を探しながら進む。次は草の斜面。左は山、右は谷。絶対滑っては行けない場所。そして、とうとう4700mの断崖絶壁に到着、まっすぐ立てない。腰を低く、3点支持で進むと、“あったぞー！！”という声。とうとう辿り着いた！！



やっと出会えた天上の貴婦人/ブルーポピー！！①

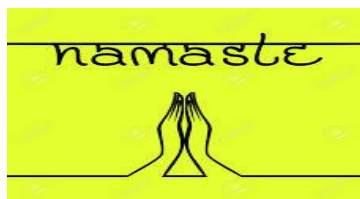
一体どんな花なのだろうとゆっくり、ゆっくり近づくと、他に花は一切無い絶壁の岩場に1輪だけ静かにうつ向き加減の姿を見せてくれた。本当に“孤高の花”という言葉がぴったりの可憐な姿。“何でここに？？こんな所に？？虫も来ないし、誰にも見られる事もないのに。”その花は宇宙から降り立った様に凜と咲いていた。そこから4株ほどのブルーポピーを見つけるが、それ以上は危険で近づく事も困難。そして下山。6時に宿に戻った。約9時間の歩行。高山病のため宿で待っていた二人に報告すると、私達が出発した後、村ではずっと雨が降っていたらし

い。山は晴天、不思議だった。



やっと出会えた天上の貴婦人/ブルーポピー！！②

翌日は村のお祭りで、祈りの儀式や、広場に集まった村人たちのダンスを楽しむ。ネパールの暖かさに触れた素晴らしい旅でした。またもう一度ヒマラヤに来ます、そうシェルパ達に約束して、無事帰国となりました。忘れられない、二度と出来ない思い出深い旅でした。



.....

## ●川柳

保久良支部

柳号 (ペンネーム) 北山ほくら

- 目に見えぬ狼煙を上げる侵入者
- 満開の桜恨めし自粛中
- 三密を避けたい人で山密に
- しばらくはSTAY HOMEが合言葉
- めげないでみんな元気でまた会おう

